

令和6年度 武山支援学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（法令遵守、服務規律の徹底）	常に教育公務員としての自覚を持ち、法令遵守により公務外非行の発生を未然に防止する。	年度始めや長期休業前、不祥事防止研修等にて、服務の説明・確認等を行い、教育公務員としての自覚を促した。勤務時間外においても教育公務員としての自覚と誇りを持って行動できるよう、職場全体としての意識を高め、公務外非行の発生を防ぐことができた。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	相手の心身を思いやり、人権を尊重した職場環境の下で、パワハラ・セクハラ・マタハラ行為を防止する。	不祥事防止職員啓発・点検資料等を通して人権やハラスメントについての知識や理解を深め、意識を向上させることができた。また、校長面接等により職員の思いや現状を把握し、必要に応じて直接指導することで職員間の適切なコミュニケーションが図られるよう努めた。今後も丁寧な状況把握が必要である。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持ち、児童生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を防止する。	不祥事防止職員啓発・点検資料等を通してわいせつ・セクハラについての知識を深め、教育公務員としての一人ひとりの自覚を促し、不祥事防止に対する意識を向上させることができた。指導場面では同性介助や複数での対応をするように努めた。
体罰、不適切な指導の防止	人権を尊重した丁寧な指導を徹底し、体罰や不適切な指導等を認めない風土づくりに努める。	外部講師を招聘し、「人権を大切にした児童生徒とのかかわり」をテーマに全職員対象の研修を行った。アンガーマネジメントの理解を深め、自分も相手も大切にするかかわりが大切だと理解することができた。今後も学校全体として問題意識を共有して不祥事を許さない気風を育てる。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜における試験問題や進路関係書類の作成・管理等を適正に実施する。	不祥事防止職員啓発・点検資料を活用し、不祥事防止研修で周知後、各自点検を行った。入学者選抜業務及び進路業務の遂行にあたり、相互点検を実施し、事故防止に努めた。進路や個別教育計画に係る書類作成や保護者への提示、校内での保管については複数で取り組むようにし、書類の受け渡しの記録を残すことを徹底した。
個人情報等管理、情報セキュリティ対策	記録メディアや文書の管理を徹底し、個人情報の紛失・流出や誤配付・誤送信を未然に防止する。	不祥事防止研修にて、データで個人情報を取り扱う場合や文書で印刷・回覧・保管などをする場合について、慎重に取り扱うことを確認し、事故防止につなげた。また、メールを送信する際の注意点など情報セキュリティに関する事項について研修を実施し、事故防止に努めた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	法令遵守を徹底し、交通事故や交通違反の発生を未然に防止する。	長期休業の前後、及び不祥事防止研修にて法令遵守の意識啓発を行った。交通事故や交通違反に対する意識を高め、事故防止に努めた。

業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	業務の効率化や調整を図り、職員間で協力体制をつくりあげ、事故や不祥事を未然に防止する。	Teamsの打ち合わせ掲示板による情報共有や打合せ事項の確認などツールを活用した業務執行のスリム化に努めた。ヒヤリハット等のチェック体制について、引き続き取り組みを強化していく。
財務事務等の適正執行	財務規則及び私費会計基準に基づき、適時、適正な財務・会計処理を行う。	公費および私費についての会計基準に基づき、適切に予算執行および会計処理ができた。財務事務調査で書類表記上の指摘はあったが、全般的に適正な処理が行われた。今後も定期的に点検を実施し、事故防止に向けた取り組みを継続していく。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

今年度の取組目標に関しては、学校全体としては概ね達成でき、校内での重大な事故や不祥事を未然に防ぐことができた。それは、職員一人ひとりが、定期的な研修等を通じて事故不祥事防止に対しての意識を維持したことによる結果である。しかし、一つ間違えば、重大な事故につながりかねない事例はある。次年度は、引き続き児童生徒の人権を大切にした指導、職員間のハラスメントの防止、組織的指導体制の強化及び個人情報の管理について重点的に取り組んでいきたい。